

## 事業の背景・目的

宮古諸島は比較的新しい地質に覆われながら遺存性の高い固有種を擁する点で学術的に価値高い。しかし、陸上生態系への関心は低く、保全活動も乏しい。さらに国内希少野生動植物種に指定され、宮古諸島の生態系を代表するミヤコカナヘビでもその認知度は低くその基礎調査も十分でない状態である。本事業ではWWFが琉球大学らと2017年より行ってきた生物学的調査・研究を基に地元での普及と、地域の官民連携での保全体制構築を目指す。



## 事業の内容

### 事業① 調査事業：

ミヤコカナヘビに関する琉球大学との基礎調査を通じ、保全計画に資する科学的情報の収集

- ・宮古諸島の6島・28地点で生息確認
- ・遺伝子系統が3つに区分され集団ごとの隔離を確認。第9回世界両生類爬虫類学会で発表

### 事業② 普及事業：

ミヤコカナヘビの地域への普及

- ・2020年1月のエコの島コンテストに出展。協働する地元高校生も発表
- ・宮古高校科学部の高齢者への過去のミヤコカナヘビ生息情報の聞き取り調査活動が完了。

### 事業③ 地域体制構築事業：

島内の活動担い手の発掘育成と行政間連絡会議開催

- ・「宮古島の希少種保全・外来種問題に係る複数の事業関係者による連絡会議」に参加
- ・行政や専門機関も横断での情報共有と島内啓発企画を協議

### 事業④ エ ミヤコカナヘビ

保全地域モデル発信事業：

- ・台湾での爬虫類のモニタリング活動市民ネットワークや研究機関を訪問し、今後の協力について協議
- ・南西諸島の外来生物のほか違法密猟について専門家らへのヒヤリング実施

## 得られた成果

これまですすめてきたミヤコカナヘビの基礎調査が完了。宮古諸島5島のうち83地点で生息を確認し、36地点の試料に基づくDNAと分析により、遺伝的に分化した2群の存在と、一部の隣接地域間で遺伝子流動が制限されていることを確認。これらの結果について、第9回世界両生類爬虫類会議で発表。今後この情報ももとに、島内関係者、住民一般向けの普及機会を継続開催する。また地元の県立宮古高等学校科学部生徒による、過去の生息聞き取り調査活動に対し、沖縄青少年科学作品展にて、その活動が県知事賞を受賞。今後2020年5月予定の沖縄生物学会での発表を目指す。2020年以降は、マリリゾートの開発が進む宮古島の観光開発圧とともに違法密猟対策も視野に、行政や地元組織との課題共有を図り、島の宝としてのミヤコカナヘビの島民間意識情勢を拡大する。

